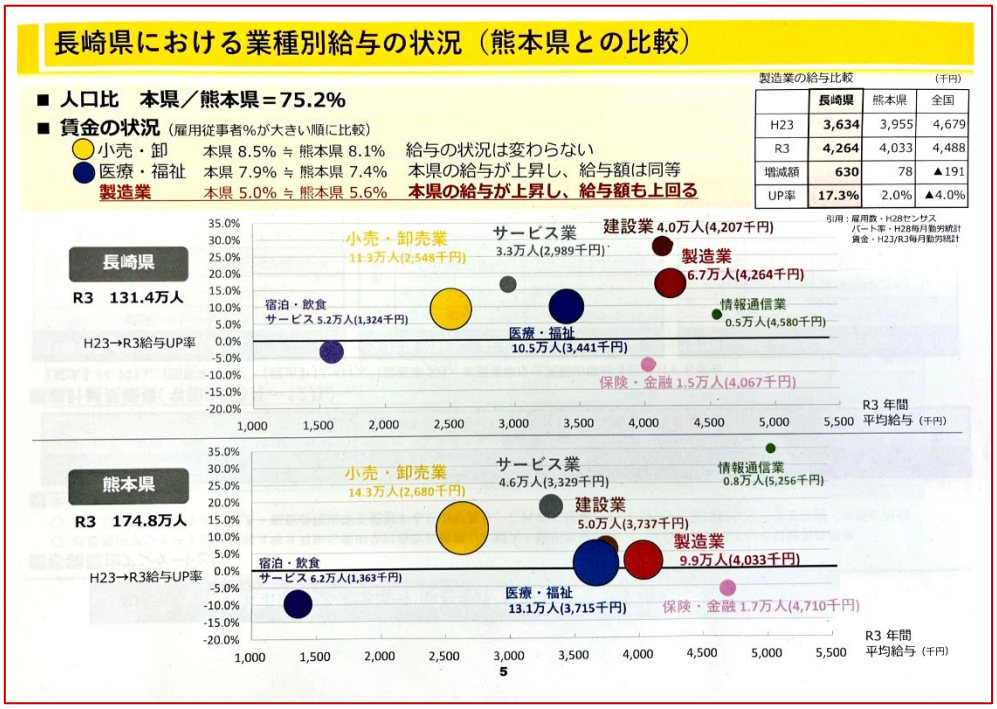
まえてつ通信 4th
NO. 005　2023(R5).7.25（火）

長崎市の産業振興の課題

前回お伝えした県市交えた勉強会を**「商工会議所との意見交換会」**という形でキックオフいたしました。本県の社会減の７割を占める長崎市・佐世保市に特化した産業振興による人口減少対策。具体には**「観光」「産業振興」「一次産業」の推進**を現状の取り組みは加速させ、またこれまでにない新たな視点を加え、県市の連携強化により速やかに成果をだすことを目的としています。

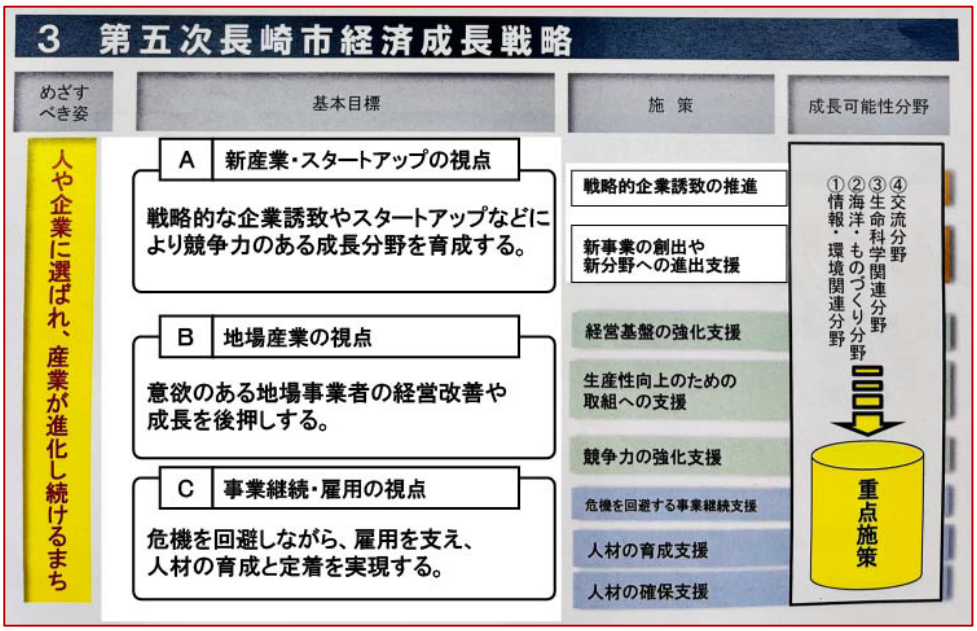
当日は馬場長崎県副知事、功刀（くぬぎ）長崎市副市長にも同席頂き、まずは県・市の各産業における現況や課題認識について説明を受けました。



左記の状況をみるとき、**建設業**が公共で支えつつ、**製造業**をさらに伸ばしていかねばならぬこと、**情報通信分野**を拡大すること、**観光業**については「稼ぐ力を増大させ所得を上げる」ことが課題であることがはっきりとわかります。

熊本県との比較は記事にある通り、九州のなかでも顕著に**製造業**の企業誘致で成功を遂げた県であるからです。本県（長崎市）の課題が明確に見えてきました。

また意見交換会のなかで、長崎市側から産業振興ならびに観光業の課題認識を示されました。そしてその課題に対し『第５次長崎市経済成長戦略』を策定していますが、まずはこの成長戦略の中身の検証を急ぎます。



【課題】

Ⅰ　域外から所得を獲得する力のある産業の育成

Ⅱ　企業誘致・起業支援による新たな活力の創出

Ⅲ　域内サプライチェーンの強化、域内調達率の向上

Ⅳ　労働生産性の向上と経営基盤強化

Ⅴ　人材確保・人材育成

発行：前田哲也　〒852-8023 長崎市若草町 14-11　TEL095-840-9020　【HP】maetetsu.jp　FB【前田哲也】
※まえてつ通信はご支援頂いている方にお送りしています。メール配信（カラ-PDF）へご変更、配信停止ご希望の方はご連絡ください。

長崎市の産業振興の課題

観光業については、長崎市は政策立案(観光・MICE戦略)とハード面での魅力づくり・環境整備を行い、ＤＭＯ(観光地域づくり法人、観光客の行動をマーケティングし来訪者に何を提供するかを考える組織)は、ソフト面からの魅力づくりを担っており、２者で役割分担しながら観光まちづくりを推進しています。ＤＭＯからの課題としては**『人出不足』『ＤＸの推進』『決済環境の整備』**等が挙げられています。

長崎新聞　2023年（令和5年）7月20日 木曜日　経済　8

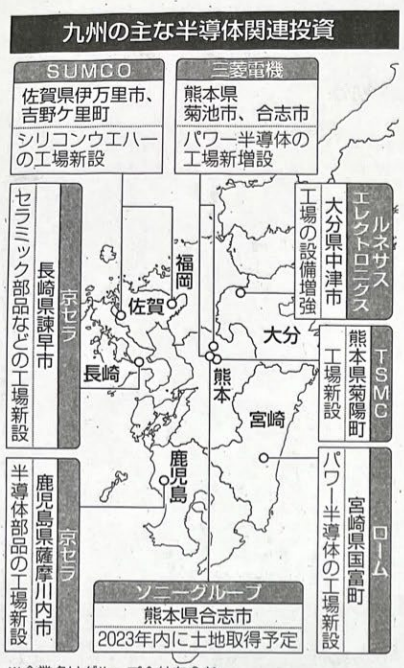
九州 半導体投資に沸く

世界大手 ＴＳＭＣ進出が起爆剤

復活

1980年代に半導体メーカーが集積し、かつては「シリコンアイランド」と呼ばれた九州が再び半導体投資に沸いている。この2年半近くの公表投資額は1兆8500億円超。半導体世界大手、台湾積体電路製造（ＴＳＭＣ）の進出が起爆剤となり、半導体生産に不可欠な豊富な水資源とサプライチェーン（供給網）が評価されているためだ。

熊本県菊陽町で建設が進む台湾積体電路製造（ＴＳＭＣ）の工場　＝4月



業局の苗村公嗣局長は同日の記者会見で「裾野の広い産業で歓迎だ」と述べ、相次ぐ投資計画を喜んだ。

三菱電機は約1千億円を投じ、高圧の電力制御に使う次世代のパワー半導体の工場を熊本県菊池市に建てるほか、近くにある合志市の工場の設備を増強する。電子部品大手ロームも宮崎県国富町に同じ半導体の生産拠点を設ける。両社が見据えるのが電気自動車（EV）向けの需要拡大だ。

ソニーグループ子会社、ソニーセミコンダクタソリューションズは合志市の土地約27万平方㍍を年内に取得。スマートフォンなどに使われるイメージセンサーの工場を新設するとみられる。

同社は九州に四つの半導体関連工場を持つ。担当者は「豊富な水に加え、半導体企業の多くが集まり、オペレーションがしやすい」と語る。九州の関連企業は約千社を数える。

半導体のパッケージや半導体製造装置用のセラミック部品の生産能力を高めるのは京セラだ。同社にとって約20年ぶりとなる国内工場を諫早市で2026年をめどに稼働させる。

鼻息

活発な投資は大手企業だけにとどまらない。ＴＳＭＣが進出を発表した21年10月以降、熊本県の自治体と協定を結び立地を決めた関連企業は28社。経産局によると、九州7県で半導体に絡む協定は21年4月～23年7月18日で64件に上り、投資額を明らかにした企業の合算で1兆8500億円を超える。

活況な投資とは裏腹に、九州の産官学が頭を抱えるのが半導体人材だ。今後10年間にわたって年千人程度の人手が不足すると試算した。経産局の担当者も「一番の鍵が人材だ」と強調する。

熊本大が24年度に半導体人材を育成する学部相当の「情報融合学環」を設けたり、経産局などが高等専門学校や大学で出前授業を行ったりと地道な取り組みが始まった。

２年半で1.8兆円　豊富な水と供給網 評価

28万円―。ＴＳＭＣ熊本工場の運営会社に23年春入社の大卒初任給はメガバンクより高く、他企業はこの厚遇に悲鳴を上げるしかなかった。

ＴＳＭＣは23年6月、熊本県で第2工場の建設を検討していると表明。業界関係者は「九州への投資はますます加速していくだろう」と鼻息が荒い。だが、専門人材の育成には時間を要し、獲得競争の激化は避けられない。